

謹賀新年



質の高い医療の提供のために

院長 五島一征

明けましておめでとうございませす。

2009年を迎え、心より新年のご挨拶を申し上げます。皆さまがたにとりまして、当院にとりましても、夢のある希望に満ちた年であって欲しいと願っております。

医療をめぐる環境はますます厳しさを増し、全国の自治体病院は最悪の状態に陥っております。しかし、どのような社会情勢になろうとも、中東遠地域の中核病院として、「愛365日」の精神を持つ

て、この地域の皆様に満足と安心をもって受け入れられる、より質の高い医療を提供することに努めていきたいものと存じます。ただ今、袋井市立袋井市民病院との合併の話が進んで、病院用地の候補地も決定しました。地域医療について、より深く考えて対応していかなければなりません。

昨年の業務を振り返って

平成18年度の診療報酬改定では、薬価・本体あわせて3・16%の引き下げが行われ、病院経営を取り巻く医療環境はますます厳しく、一昨年の経営状況報告では、多額の純損失となつてしまいました。昨年も病院職員一同、収益の確保と経費の削減に努めました。今年度もより一層の経営努力が必要になると思われます。

新病院へ向けて

当院がこの場所へ建てられてから、本年度24年が経つことになり、設備面での老朽化が目立って参りました。さらに医療の高度化が進み、当院の医師不足も、全国の例にもれず深刻であります。国は医

療費の抑制のためにベッド数の削減を政策としており、建て替えのためには、ベッド数の削減が必須となっております。

また、建て替えを行うにしても、この地域の医療レベルの維持には、当院ひとつではたいへん難しい状況であります。

そのような中、同じく立て替えの時期にある隣市の袋井市立袋井市民病院との統合、周辺自治体病院との連携が提言されました。

その提言や市議会での議論を踏まえ、「掛川市・袋井市新病院建設協議会」が11回にわたり開催され新病院の建設に向けた合意がなされました。そのことから、両市で病院の建設を行うことがほぼ決定にいたりました。新年早々、掛川市、袋井市の両市長による調印が行われます。

新しい病院は、現在、不足が著しい医師・看護師や当院で働くすべての職員にとつても、専門的な医療や勉強をする余裕があり、また何よりも働きがいを持って働くことができる病院にしたいかなければなりません。そのためには、多くの皆様のご理解とご意見を伺っていくことが必要となります。昨年は、地区集会にも参加さ